

事業所における自己評価結果（公表：児童発達支援）

公表： 2024年 3月 1日

事業所名：いとキッズ（児童発達支援）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	問題や改善すべき点を踏まえた改善点または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		二部屋あり、基準の倍以上のスペースを確保しています。	
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		事業所内は、全て段差の無いバリアフリー構造となっています。構造化まではされていませんが、わかりやすいように活動や状況により使い分けています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		コロナ対策として、24時間換気と、ナノイーX搭載の空気清浄機を2台設置しています。また、アルコールでの消毒・清掃は毎日行っていますが、使用しているアルコールは、食品にかけても良いものです。万一、お子様が消毒した手をなめてしまっても安全なものを使用しております。	
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年保護者に評価表を記入して頂いています。随時保護者の意向を知ることができるよう、玄関にご意見箱を設置しています。	

業務改善	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価につきましては、今後の実施を検討させていただきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月一回、虐待防止などの施設内全体研修を行っており、部署会議後に、専門研修を行っています。
適切な支援提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		コロナ禍で電話によるやり取りが多くなっていたため、できるだけ対面で実施できるようにしていきたいと思います。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	アセスメントにつきましては、聞き取りや行動観察等を行っておりますが、標準化されたアセスメントツールの使用につきましては、今後検討して参ります。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		会議にて意見を出し合っており、計画しています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事や学齢に合わせた行事などを取り入れるよう心掛けています。

①6	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
①7	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		出勤時間が異なる職員には申し送りノートや個別に打ち合わせを行うなどしています。	
①8	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		勤務終了時間が異なる職員には、申し送りノートに記録し職員同士で共有しています。	
①9	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳、その他重要な事は日報、個人ファイル等に記入し共有しています。	
②0	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
②1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
②2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
②3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		看護師が中心となり、連携をとっています。	
②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		契約時に、医療情報に関する書類にかかりつけ病院や主治医を記入して頂き、連絡体制を整えています。	

関係機関や保護者との連携

②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ケース会議等には積極的に参加しています。	
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		糸島市児童発達支援部会の参加時に、他事業所の意見等を参考にしています。	
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナの感染状況を見ながら、今後進めて参ります。
②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に、その日の子どもの様子等の情報交換をしています。	
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○	職員間でペアレントトレーニングについての勉強会等は行っておりますが、保護者への支援にはいたっていません。	今後も勉強会等を重ねながら、まずはスタッフの能力向上に努めたいと思います。
③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

保護者への説明責任等

③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	積極的には行っていませんが、行事等への参加で交流の機会を設けています。	
③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月活動予定表を配布しています。活動の報告は、個別に写真をお渡ししたり、フェイスブックにてお知らせしています。	
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナの感染状況を見ながら、今後進めて参ります。
④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		保護者向けに、各マニュアルを玄関に設置しております。	
④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		現在は、消防避難訓練を年2回、水害・地震時の避難訓練を年1回行っています。	

非常時等の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前に細かく聞き取りを行い、発作時などに迅速に対応できるようにしています。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示書はありませんが、保護者の指示に基づき、対応しています。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。